



笠間焼誕生250年記念シンポジウム

日時 令和4年9月23日（金・祝） 午前10時～
会場 笠間市笠間公民館 大ホール

式次第

1. 開会

2. あいさつ

笠間焼誕生250年祭実行委員長（笠間市長） 山口 伸樹
笠間焼協同組合 理事長 大津 廣司
茨城県陶芸美術館 館長 金子 賢治

3. パネルディスカッション

○陶炎祭はこうして始まった ～40年を振り返る～

笠間焼協同組合	理事長	大津 廣司	（パネリスト）
〃	理事	増渕 浩二	（ 〃 ）
〃	理事	寺本 守	（ 〃 ）
〃		筒井 修	（ 〃 ）
〃		藤本 均	（ 〃 ）
〃	理事	菊地 弘	（コーディネーター）

4. 事例発表

○『笠間長石』について ～稲田石の笠間焼原料への利用～
茨城県立笠間陶芸大学校 主任研究員 吉田 博和

5. 基調講演

○販路開拓から見た笠間焼の未来について
株式会社ライヴス 代表取締役 清家 貴

6. 閉会

《発表者等経歴紹介》

パネルディスカッション

○陶炎祭はこうして始まった ～40年を振り返る～

大津 廣司 (おおつ ひろし)

1947年笠間市出身。1972年「大津晃窯」の4代目を継承。翌年、技術院名古屋工業試験場にて釉薬研究を行い、1980年茨城県郷土工芸技術後継者として県知事賞を受賞。その後、様々な賞を獲得し2005年伝統工芸士に認定。2013年笠間焼伝統工芸士会会長就任。2015年日本伝統工芸士会功労者表彰を受賞。2016年茨城県窯業振興協会会長及び笠間焼協同組合理事長に就任し、笠間焼振興及び後進育成に努めるなど、現在に至る。近年では、2017年伝統工芸品産業功労者経済産業大臣賞を受賞。

増渕 浩二 (ますぶち こうじ)

1944年桜川市(旧真壁町)出身。1964年愛知県立瀬戸窯業高校卒業後、笠間市に移住し笠間焼を学ぶ。1970年独立し「向山窯」を築窯。1987年以降、笠間焼連組合(現・笠間焼協同組合)の理事長、笠間焼伝統工芸士会長、(一社)笠間観光協会会長などを歴任。2006年伝統的工芸品産業功労者経済産業大臣表彰。2015年叙勲受賞(瑞宝単光賞)を受けるなど、若手作家の育成、伝統工芸の振興に努め、地場産業の発展に貢献。現在は、笠間焼以外の他分野においても(一社)茨城県観光物産協会、表千家同門会茨城支部、などで要職に就き幅広く活動。

寺本 守 (てらもと まもる)

1949年神奈川県出身。1976年笠間市に築窯。2004年米国ニューヨークの「ギャラリーGen」にて二人展、2007年第2回菊池ビエンナーレ展入選、同年フランス国立セーブル美術館「TOJI」展、2008年にはオランダで行われたグループ展へなど出展するなど海外展開も精力的に活動。2009年コンテンポラリージャパニーズデザインセラミックス、2014年第19回岡田茂吉賞MOA美術館、2018年第46回伝統工芸陶芸部会にて日本工芸会賞を受賞。2021年第61回東日本伝統工芸展にて三越伊勢丹賞を受賞。現在は、笠間焼協同組合の理事のほか(公社)日本工芸会正会員及び日本陶芸美術協会常任幹事として幅広く活動。

筒井 修 (つつい おさむ)

1948年長野県飯田市出身。1969年東京クラフトデザイン研究所陶磁器工芸科卒業。1976年笠間市に築窯。1980年茨城県芸術祭美術展特賞、翌年には茨城県芸術祭美術特賞を受賞。1994年英国国立ヴィクトリア アンド アルバート美術館収蔵、2009年ジャパニーズコンテンポラリーセラミックオークション・パリ展など海外の展示会に多数出展。2019年には「いきいき茨城ゆめ国体」の炬火台の製作（笠間焼協同組合プロジェクト）に携わるなど、現在も精力的に活動。

藤本 均 (ふじもと ひとし)

1951年和歌山県出身。1975年高松次郎塾で学び、同年、京都アンデパンダン展に出展。1977年藤本陶工房を設立。1996年オデーサ美術館にてバティスカーフ展、2000年には中国美術館にて中国精華大学国際陶芸交流展に出展するなど国内外を問わず幅広く活躍。2010年笠間いわま竹工房を設立。現在は、鈴木繁氏と共に孟宗竹細工後継者育成に向け活動。

菊地 弘 (きくち ひろし)

1954年東京都文京区出身。明治学院大学在学中、笠間焼の窯元にて修行。卒業後、愛知県立瀬戸窯業陶芸専攻科を修了。1982年御前山村（現在の常陸大宮市）に築窯。1989年陶芸ビエンナーレ展入選。1990年日本伝統工芸展に入選し、以後14回の入選を経る。2000年茨城県芸術祭美術展「板谷波山賞」を受賞。2007年フランス・パリで行われた日本陶芸・伝統と前衛「TOUJI展」に招待出品。2010年日本伝統工芸展陶芸部会展にて日本工芸会賞を受賞。2011年第21回日本陶芸展入選。現在は、笠間焼協同組合の理事としても活動。

事例発表

○『笠間長石』について ～稲田石の笠間焼原料への利用～

吉田 博和（よしだ ひろかず）

1977年石岡市（旧八郷町）出身。2000年筑波大学卒業後、同大学院に進学、数理物質科学研究科にて修士号を取得。2002年茨城県庁入庁、工業技術センター窯業指導所（現在の茨城県立笠間陶芸大学校）に勤務。以後、現在まで笠間焼に関する研究や技術支援に従事。その他、石材業界の支援、釉薬の理論に関する研修なども担当。主任研究員として、稲田石を笠間焼の釉薬原料として利用するため、元素分析及びテストピースの制作など『笠間長石』開発の柱となった。

基調講演

○販路開拓から見た笠間焼の未来について

清家 貴（せいけ たかし）

愛媛県宇和島市出身。1990年立命館大学卒業後、(株)リクルートを経て2003年ライヴスを設立し代表取締役役に就任。地域発商品の商品開発、販促支援、販路開拓のためのマーケティングアドバイスを主業務として、全国各地の地域メーカーの支援を実施。2009年全国各地の工芸品のテストマーケティングショップ Rin のプロデューサーの就任をきっかけに、工芸品の国内外での販路開拓事業に注力。パリ、ローマ、ジェノヴァでの Japan ブランド商品の販路開拓 PR 事業や上海、バンコクでの工芸品ショップの開設運営等の政策事業の企画運営サポート業務、ロンドンでの自社店舗「Wagumi」の開設運営を行うなど、工芸品を核に地域産品の海外での販路開拓業務を積極的に展開している。